

DI 調査結果（令和元年7月-9月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は3期連続後退しており、米中貿易摩擦や中国経済の減速などにより、予断を許さない状況』

【調査概要】

1. 今期(令和元年7月-9月期)の業況調査DI12項目では、プラスDIは、現場の繁忙さを表す指標の「生産設備」3.8(前回3.2)の1項目(前回3項目)のみとなった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」が▲28.0(前回▲23.4)、「収益状況」も▲30.0(前回▲18.8)と、さらに減少しており、米中貿易摩擦や中国経済の減速などにより悪化している。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「生産設備」は3.8(前回3.2)と微増で推移しているが、「操業率」▲2.1(前回2.4)、「受注残」▲2.9(前回5.6)とマイナスに転じ、景気の減速傾向が強くなっている。
3. 来期については、「来期受注」▲29.7(前回▲15.7)、「来期採算」▲28.5(前回▲21.5)、「来期資金繰り」▲14.6(前回▲10.4)と、さらに悪化しており、米中貿易摩擦や中国経済の減速などの影響により先行きについては厳しい見通しとなっている。
4. 「企業経営上の悩み」については、前期10期ぶりに最重要課題となった「受注不安定」が42.3(前回38.6)とポイントを上げており、景況感を直に表している。
5. 今回10項目でポイントが悪化しており、景気の失速感が増している。現場の繁忙さを表す「受注残」も、マイナスに転じているが、生産性向上のための設備投資については前向きである。
 来期については、米中貿易摩擦や中国経済の減速、英国のEU離脱問題などの海外リスクの影響が懸念され、不透明感はさらに増してきており、予断を許さない状況が続くものと思われる。

